

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-183375

(43)公開日 平成9年(1997)7月15日

(51)Int.Cl.⁶

B 6 2 D 1/04
B 6 0 R 21/20

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 2 D 1/04
B 6 0 R 21/20

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全4頁)

(21)出願番号

特願平7-352173

(22)出願日

平成7年(1995)12月28日

(71)出願人 000220066

東京シート株式会社

埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号

(72)発明者 藤村 尚史

栃木県塩谷郡高根沢町大字太田字治部沢
118-1 東京シート株式会社内

(72)発明者 四宮 伸輔

東京都台東区台東1丁目13番6号 日伸化
成株式会社内

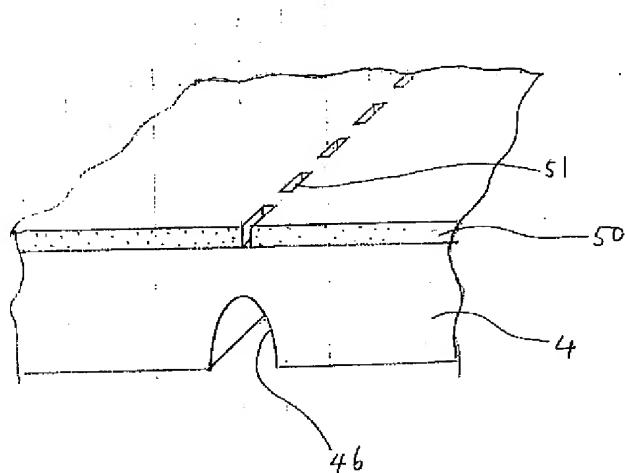
(74)代理人 弁理士 秋山 敦

(54)【発明の名称】 皮革貼りエアバッグカバー

(57)【要約】

【課題】 意匠的に外観が良好で、皮革の貼合作業が容易で作業性の向上を図ることの出来る皮革貼りエアバッグカバーを提供。

【解決手段】 エアバッグカバー本体4の内側にはスリット43, 44が形成され、このスリット43, 44は、凹部46からなる薄肉の破断ラインとなっている。エアバッグカバー本体4の上面は、皮革50が貼合され、この皮革50には、上記破断ラインと同じ位置に、上記エアバッグカバー本体4の凹部46上に配置されるミシン目からなる空孔部51が形成されている。そしてエアバッグカバー本体4の凹部46と皮革50の空孔部51とを合わせてエアバッグカバー本体4を皮革50で覆って接合する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】エアバッグ膨張に伴って開裂する破断ラインを備えたエアバッグカバーの表面に皮革を貼合してなるエアバッグカバーにおいて、エアバッグカバー本体の内側に形成された凹部からなる薄肉の破断ラインを有するカバー本体と、少なくとも前記カバー本体の開裂初期に破断する破断ラインの部分の位置にミシン目からなる空孔部が施された皮革と、を備え、前記カバー本体の破断ライン上に皮革の空孔部を合わせてカバー本体を皮革で覆って接合したことを特徴とする皮革貼りエアバッグカバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、自動車のステアリングホイールに装着されるエアバッグ装置のエアバッグカバーに係り、特にエアバッグカバーの表面側を皮革で被覆した皮革貼りエアバッグカバーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】自動車の運転席用エアバッグ装置は、ステアリングホイールの中央部分に設置されており、この運転席用エアバッグ装置は、一般にリテーナと称される取付板にエアバッグが取り付けられ、これらを覆うようにエアバッグカバーが装着されたものである。そして、一般にエアバッグカバーの裏面側にはリテーナと固着のためのリブ(縦壁)が形成され、このリブの内側にバッグを収容できるように構成されている。

【0003】またエアバッグカバーには、エアバッグ作動時に予定された線で開裂されるように破断ラインとしてのスリットが設けられている。このスリットは、開裂予定ラインの部分に溝を連続的に形成したり、ミシン目状に形成したり、溝の深さを間隔をおいて深くして形成したもの等が知られている。またエアバッグカバーを硬質層と軟質層との二層積層構造としたものにあっては、開裂予定線に沿って硬質層にもスリットを形成したものもある。

【0004】いずれの場合にも、エアバッグカバーは合成樹脂等で構成されており、その表面を豪華に装飾するため或いはステアリングホイールの皮革巻きに合わせて、エアバッグカバーにも皮革を貼り付けるという要望がある。しかしえアバッグカバーに単に皮革を貼り付けると、破断ラインを覆ってしまい、バッグの展開に不都合になるという問題があった。

【0005】このため皮革を別体で複数枚用意し、破断ラインの部分で重ね合わせて接着剤等で接合した技術が提案されている。このような破断ラインに沿って別体の皮革を張り合わせると、意匠的に外観において不都合であるだけでなく、皮革の貼合作業が面倒であるという不都合がある。また皮革の合わせ部分の処理が難しく、非効率的であった。

【0006】本発明は上記問題点に鑑みてなされたもの

であって、その目的は意匠的に外観が良好で、皮革の貼合作業が容易で作業性の向上を図ることの出来る皮革貼りエアバッグカバーを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明に係る皮革貼りエアバッグカバーは、エアバッグ膨張に伴って開裂する破断ラインを備えたエアバッグカバーの表面に皮革を貼合してなるエアバッグカバーにおいて、エアバッグカバー本体の内側に形成された凹部からなる薄肉の破断ライン

10 を有するカバー本体と、少なくとも前記カバー本体の開裂初期に破断する破断ラインの部分の位置にミシン目からなる空孔部が施された皮革と、を備え、前記カバー本体の破断ライン上に皮革の空孔部を合わせてカバー本体を皮革で覆って接合したことを特徴とする。

【0008】

【発明の実施の態様】本例のエアバッグカバー本体4の内側にはスリット43, 44が形成され、このスリット43, 44は、凹部46からなる薄肉の破断ラインとなっている。そしてエアバッグカバー本体4の上面は、皮革50が貼合されている。

【0009】本例の皮革50には、上記破断ラインと同じ位置に、上記エアバッグカバー本体4の凹部46上に配置されるミシン目からなる空孔部51が形成されている。

【0010】そしてエアバッグカバー本体4の凹部46と皮革50の空孔部51とを合わせてエアバッグカバー本体4を皮革50で覆って接合する。エアバッグカバー本体4と皮革50との接合は、接着剤等を用いて行う。

【0011】また皮革50のミシン目からなる空孔部51の形成部分が破断ラインと一致するために、エアバッグ展開時において、皮革50が障害となることなくエアバッグカバーを開裂させることができる。

【0012】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。なお、以下に説明する部材、配置等は本発明を限定するものではなく、本発明の趣旨の範囲内で種々改変することができるものである。

【0013】図1乃至図6は本発明に係る皮革貼りエアバッグカバーの実施例を示すものであり、図1はステアリングホイールの正面図、図2は皮革を貼合する前の状態を示すカバー本体の斜視図、図3は皮革を貼合した状態を示すカバー本体の正面図、図4は皮革貼りエアバッグカバーを説明する要部断面斜視図、図5は図1のB-B断面図、図6は図1のC-C断面図である。

【0014】本例のステアリングホイールSは、図1で示すように、環状グリップ部10aと、この環状グリップ部10aから内側に延出した3か所の延出グリップ部10bとを有しており、この延出グリップ部10bの内側にエアバッグ装置Eが配設されている。本例のエアバッグ装置Eは、バッグ1と、インフレータ2と、リテー

ナ3と、エアバッグカバー本体4とを主たる構成要素としている。

【0015】本例のリテナ3には、図5及び図6で示すように、中央部にインフレータ2を取付ける中心穴32が形成され、バッグ1の開口周縁をリテナ3とバッグリング35で挟持して、ビス等の固着具でインフレータ2及びリテナ3と共に取着し、リテナ3とインフレータ2とバッグ1とが一体に組み付けられている。なお本例のバッグ1は、バッグ1それ自体が公知の手段によって収納保形されている。

【0016】また本例のリテナ3の両側端部側はボス部5側へ折れ曲がった折曲部33が形成され、この折曲部33は、所定位置でエアバッグカバー本体4に形成されたリブ42及びボス部5に取着されたボスプレート7とビス等、取付けねじの固着具8によって一体に固定されている。

【0017】本例のエアバッグカバー本体4は、合成樹脂で構成され、上面部41と、この上面部41から下方延出したリブ42が形成され、リブ42はバッグ1、インフレータ2等を覆う範囲を囲うように形成されている。

【0018】そして本例のエアバッグカバー本体4の裏面側には、中央位置で車幅方向（横方向：図1では左右方向）の第1スリット43が形成され、この第1スリット43の端末43aで、第1スリット43に直角方向の第2スリット44が形成され、第1スリット43及び第2スリット44、44によりH状の破断ラインが形成されている。従って、開裂初期部分を第1スリット43のカバー中央部として、連続して第2スリット44からヒンジ部45の形成位置近傍の最終開裂位置まで伝播するように構成されている。

【0019】そして本例のエアバッグカバー本体4の内側に形成されたスリット43、44は凹部46からなる薄肉の破断ラインとなっている。そしてエアバッグカバー本体4の上面には、皮革50が貼合されている。

【0020】本例の皮革50は、上記破断ラインと同じ位置に、上記エアバッグカバー本体4の凹部46上に配置されるミシン目からなる空孔部51が形成されている。従って皮革50に形成されたミシン目からなる空孔部51により、空孔部51の形成部分が他の皮革部分に比して破断し易い状態となって構成される。

【0021】そしてエアバッグカバー本体4の凹部46上の部分に、皮革50のミシン目からなる空孔部51を合わせてエアバッグカバー本体4を皮革50で覆って接合する。エアバッグカバー本体4と皮革50との接合は、接着剤等を用いて行う。

【0022】以上のように皮革50をエアバッグカバー本体4に貼合することにより、エアバッグカバー本体4

の破断ラインを隠蔽して高級感を出すことができる。また本発明では、皮革50にミシン目からなる空孔部を用いているために、空孔部の径とピッチ幅等を選定することにより、意匠効果を高めることが出来、バラエティに富んだ皮革貼りエアバッグカバーを備えたステアリングホイールとすることができる。

【0023】また皮革50のミシン目からなる空孔部51の形成部分が他の皮革部分と強度においては、脆弱となり、この脆弱部分がエアバッグカバー本体4の破断ラ

10 インと一致するために、エアバッグ展開時において、皮革50が障害となることなくエアバッグカバーを開裂させることができる。なお皮革には合成皮革等を含むことは勿論である。

【0024】上記実施例では空孔部51を長孔としているが、楕円形孔や円形孔としたり、瓢箪形としたり、菱形、三角、他の多角等各種の空孔部とすることができます。これによりエアバッグカバーに各種の意匠効果を出させることができるもの。

【0025】また皮革50の空孔部51の形成部分をエ20 アバッグカバー本体4の初期開裂部分にだけ形成した例を確認したところ、スリット43のラインに沿って皮革50も開裂し、スリット44には沿わなかったが、バッグの展開に不都合がなかった。

【0026】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、皮革のミシン目からなる空孔部の形成部分がエアバッグカバー本体の破断ラインと一致するために、エアバッグ展開時において、皮革が障害となることなくエアバッグカバーを開裂させることができる。また空孔部の形状等を各種30 変更でき、バラエティに富んだものとすることができ、意匠的効果は絶大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るステアリングホイールの正面図である。

【図2】皮革を貼合する前の状態を示すカバー本体の斜視図である。

【図3】皮革を貼合した状態を示すカバー本体の正面図である。

【図4】皮革貼りエアバッグカバーを説明する要部断面40 斜視図である。

【図5】図1のB-B断面図である。

【図6】図1のC-C断面図である。

【符号の説明】

4 エアバッグカバー本体

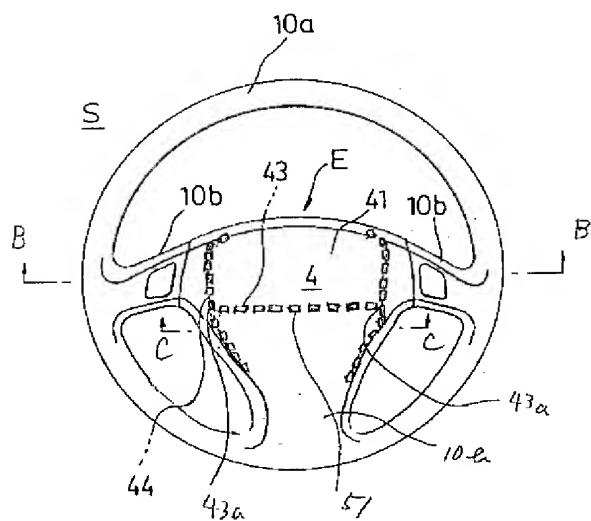
43, 44 スリット

46 凹部

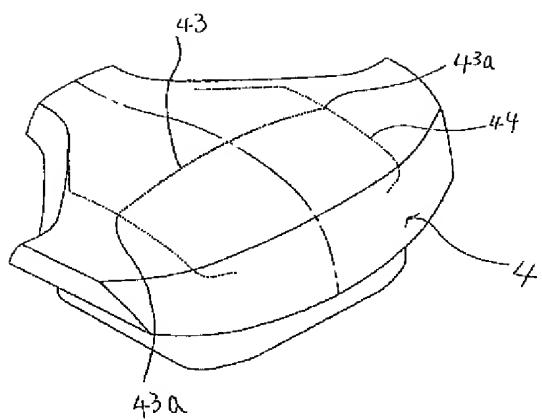
50 皮革

51 空孔部

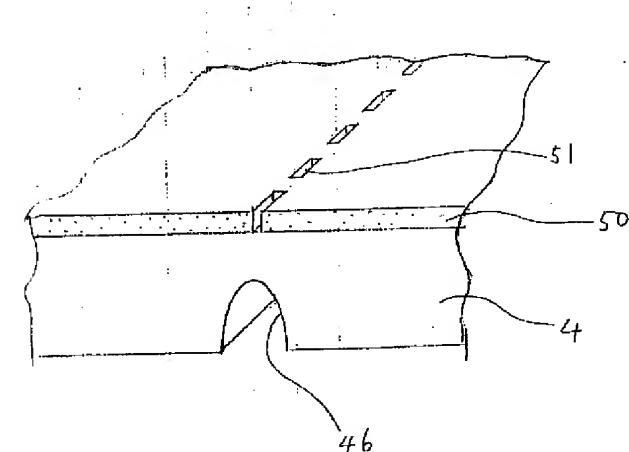
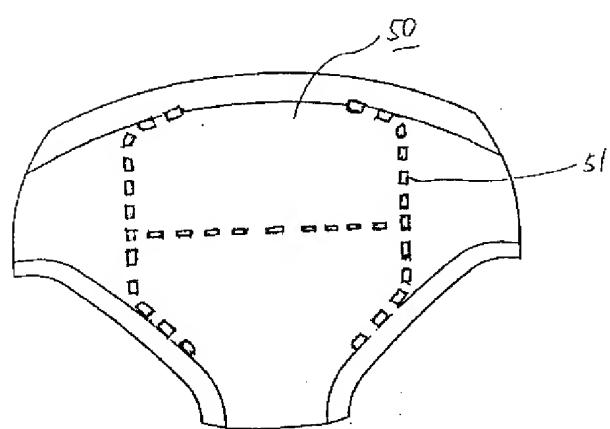
【図1】



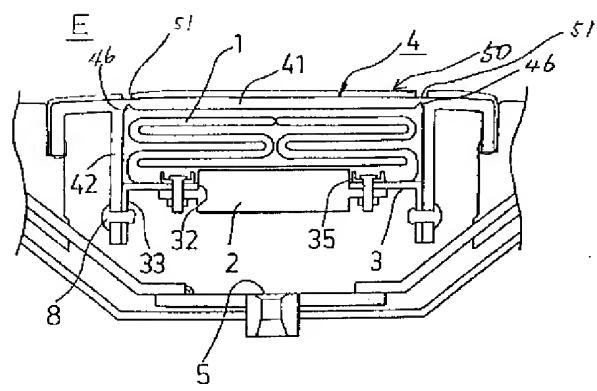
【図2】



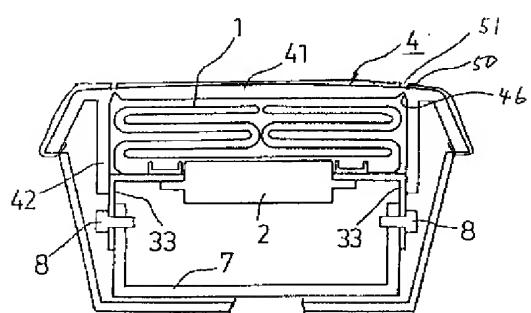
【図3】



【図5】



【図6】



PAT-NO: JP409183375A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09183375 A
TITLE: LEATHER-UPHOLSTERED AIR BAG COVER
PUBN-DATE: July 15, 1997

INVENTOR INFORMATION:

NAME COUNTRY
FUJIMURA, HISAFUMI
SHINOMIYA, SHINSUKE

ASSIGNEE INFORMATION:

NAME COUNTRY
TOKYO SEAT KK N/A

APPL-NO: JP07352173
APPL-DATE: December 28, 1995

INT-CL (IPC): B62D001/04, B60R021/20

ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a leather-upholstered air bag cover in which an excellent appearance in terms of design is provided while leather upholstering is facilitated for improvement in workability.

SOLUTION: A slit is formed on the inside of an air bag cover main body 4, and the slit serves as a thin breakage line consisting of a recess part 46. The upper face of the air bag cover main body 4 is upholstered with leather 50. In the leather 50, pore parts 51 are formed which are formed of perforations positioned on the recess part 46 of the air bag cover main body 4, in the same position as the breakage line. The

air bag cover main body 4 is covered by the leather 50 so as to be joined with it while matching the recess part 46 in the air bag cover main body 4 with the nose parts 51 in the leather 50.

COPYRIGHT (C)1997 JPO